

# 観光客に告げる教訓

国の名勝に指定されている宮古市の浄土ヶ浜。美しい造形の白い岩肌は、江戸時代には「さながら極楽浄土のごとし」とも評され、多くの人の心を引きつけてきた。海水浴客が多く訪れるその砂浜の一角には、津波の恐ろしさを伝える2

# 記憶の碑

～石碑編～

## 宮古市・浄土ヶ浜



砂浜が復旧し、20日に今年の海開きを迎える浄土ヶ浜



国の名勝に指定されている浄土ヶ浜。砂浜(中央)のそばにある浄土ヶ浜レストハウスは津波で大破したが復旧した(本社小型無人機で撮影)

## 常に避難誘導へ備え

海水浴場となる砂浜のすぐそばにある浄土ヶ浜レストハウス。島崎津支配人(39)は震災時、施設内で勤務していた。大きな揺れの後、波が引いていくさまを見て、やがて到来する津波の大きさを直感した。バスターの観光客約30人を高台の駐車場へ避難誘導し、従業員数人

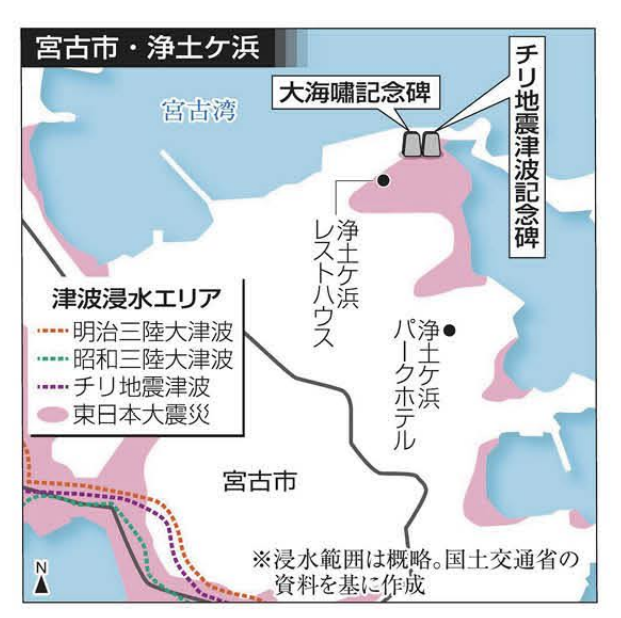
基の石碑が隣接して立っている。中には元場所に取りまわっている。一つは1966(昭和41)年の大津波を伝える大海嘯記念碑、そしてもう一つが60(同35)年のチリ地震の津波記念碑だ。大海嘯記念碑には「大地震の後は津波が来る」など五つの教訓が記されている。裏側に目を向けると、発生時間や当時の宮古市内の被害(流失4戸、溺死者2人)、建立の経緯などが詳細に刻まれている。東日本大震災の津波で一度は海



大地震の後は津波が来る  
大地震があったら高い所へ集まれ  
津波に追われたら何処でも高い所へ  
速く逃げ場を用意しておけ  
常に逃げ場を用意しておけ  
家を建てるなら津波の来ぬ安全地帯へ

津波襲来時にどう対処すべきか分からない人もいるだろう。震災時、従業員の迅速な判断で観光客が難を逃れたように、現地で働く人たちの鍵を握る。浄土ヶ浜にある石碑は、初めて訪れる観光客だけでなく、受け入れる

この連載は岩手日報HPでも公開し随時更新します



2011年3月11日、震災後、多くのがれきで埋め尽くされた浄土ヶ浜(宮古観光文化交流協会提供)

# 被災松観音像と別れ

## 移住者ら制作者に返却 心の支え

盛岡市内丸のりおか復興支援センター(金野万里センター)長は18日、陸前高田市の被災松観音像を制作した観音菩薩像を、制作者の佐々木公一さん(44)に返却した。安置場所が見つからず預かっていた約7年間、心のよりどころとしてきたセンター利用者



被災松の観音菩薩像を囲む佐々木公一さん(左から2人目)やセンター利用者たち

同センターでのお別れ会には、盛岡市に移住した被災者約20人が集まり、入り口付近に立つ高さ約160cmの観音菩薩像を囲んで、陸前高田市米崎町で被災し、盛岡市緑が丘に移住する自営業佐藤典子さん(64)は「初めて見た時の感動は今も忘れず、手を合わせてきた。被災した人の心の支えになった」と頭を下げた。陸前高田市職員だった同女性(当時28)を津波で亡くした佐々木さん。震災犠牲者慰霊のため、2012年3月から半年間かけて、樹齢約250年以上の高田松原の一本の松を彫り上げた。「被災地の気持ちに寄り添えれば」との思いだった。こんなにも多くの方に気にかけていただきありがたい」と感謝した。沿岸部の復興が進み、地域

## 職員派遣の重要性理解

### 全国関係者が被災地視察

県は18日、東日本大震災の復興を支える応援隊の確保や派遣継続に向け、全国の自治体関係者を対象に被災地視察を始めた。3コースに計31自治体・団体の50人が参加する。参加者は震災経験者らの声を聞きながら、被災地の現状や復興状況に理解を深めている。この日は大槌町・釜石市コースに21人が参加し、同町で三陸鉄道大槌駅や高台造成した住宅地などを視察。震災で多くの町職員が犠牲になり、3月までに解体された旧役場庁舎跡地では語り部が命を守る避難行動、危機意識の重要性を訴えた。



震災経験者の話に聞き入る全国の自治体関係者ら

## 地域防災の推進

### 陸前高田で議論

岩手大地域防災研究センター(越谷信センター)長は18日、陸前高田市米崎町の陸前高田グローバルキャンパスで「第22回地域防災(国際)フォーラム」を開き、災害への備えや復興について考えた。神戸大の留学生や市民ら約20人が参加。「レジリエントな災害復興と地域づくり」をテーマに、自治体の取り組みや津波被害による災害教育などの報告を行った。同センター客員教授の岡本正典氏は「災害復興法学のすすめ」と題して講演。震災証明書の被災者生活再建支援金などの制度を例示し、「事前学習が日本では脆弱」と指摘。「災害時に情報を伝えることは弁護士ではなくてもできる。皆さんもしっかりと知ってほしい。周りの人を助けられる」と

### 「高い所」心に留める

普代村銅屋 普代小5年 太田 ららさん

地元のチャタンスサークルに入っている。村のこともまわりで披露した。こともまわりは今年初めて普代浜で行う予定だったが、雨で体育館での開催になり残念。晴れた海を見ながら踊りたかった。普代浜は津波で被災した。当時のことは覚えていないが、大人から話を聞いたり、学校でも避難訓練をしていく。津波が来たときに高い所に急いで逃げると心に留めておきたい。

題字 山下文男さん

### 災害義援金受け付け

【東日本大震災】

- 銀行振り込み
  - 岩手銀行本店(普)2135547
  - 北日本銀行本店(普)7028487
  - 東北銀行本店(普)3237448
  - 盛岡信用金庫本店(普)0354142
  - 東北労働金庫盛岡支店(普)5858584
  - 岩手県信連本所(普)0027190
- 岩手日報社窓口
  - 本社と二戸、花巻、北上、奥州各支局と一関支社で。平日の午前10時～午後4時(土・日・祝日は除く)。
  - 振り込み
    - ▽ゆうちょ銀行・郵便局00130-1-673591
    - 口座加入者名「日赤平成30年北海道胆振東部地震災害義援金」
    - ※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載のこと。

### いわて漁業無線情報 (18日)

◆釜石無線局所属船

岩手丸	17時釜石発イカ漁場調査向け	53欣栄丸	99回目操業中
北上丸	16時50釜石発イカ漁場調査向け	81欣栄丸	適水中
海翔	9時久慈出港、久慈東高校海洋科3年生	83欣栄丸	120回目操業中
		85欣栄丸	入れず

カゴ漁調査実習、実習終了後久慈向け13時入港、13時30久慈出港宮古向け、17時ごろ宮古港外着錨泊、19日9時入港

◆マクローはえ組船

88欣栄丸	操業中	88欣栄丸	操業中
138欣栄丸	入れず	150欣栄丸	入れず
51勝運丸	入れず	68清福丸	入れず
151勝運丸	入れず	78清福丸	入れず
68清福丸	入れず	88清福丸	入れず
78清福丸	入れず	21新生丸	入れず
88清福丸	入れず	65欣栄丸	花咲向け帰航中

【北海道胆振東部地震】

- 岩手日報社窓口
  - 本社事業部で平日の午前10時～午後4時。土・日・祝日は除く。
  - 振り込み
    - ▽ゆうちょ銀行・郵便局00130-1-673591
    - 口座加入者名「日赤平成30年北海道胆振東部地震災害義援金」
    - ※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載のこと。

【西日本豪雨】

- 岩手日報社窓口
  - 本社事業部で平日の午前10時～午後4時。土・日・祝日は除く。
  - 振り込み
    - ▽ゆうちょ銀行・郵便局00130-1-673591
    - 口座加入者名「日赤平成30年7月豪雨災害義援金」
    - ※受領証の発行を希望する場合は、通信欄に「受領証希望」と記載のこと。